

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立佐志中学校									
1 前年度 評価結果の概要		・研究指定校、推進校を経て、職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向けさらに研究を推進していく。 ・スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。「スマホの利用時間2時間以内、睡眠時間7時間以上」についてのアンケート結果は生徒58%、保護者32%と依然低く、スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。 ・教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が87%と昨年を下回った。今後も改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。									
2 学校教育目標		確かな学力を身につけ、健康で心豊かで、生きる力をもつ生徒の育成 － 主体性・協働性の発揮 －									
3 本年度の重点目標		1 人権・同和教育を軸とした生徒指導 2 学習指導の充実 3 進路指導・キャリア教育の充実 4 開かれた学校づくりの推進									
4 重点取組内容・成果指標				中間評価			5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○生徒の表現力の向上 ○授業の振り返りによる生徒の主体性のさらなる向上	○振り返りで「自分の考えや思いを表現する活動の場が設定されていた」に対し、生徒の肯定的評価85%以上	・各教科で授業の振り返りを実施し、生徒の学習に対する主体性の向上をはたらきかける ・各教科で表現活動を実施し、その充実のために指導法を改善していく		・		・		・	学力向上コーディネーター	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の取り組みについてのアンケートで肯定的な回答の生徒と保護者の割合を90%以上	・職員による全校生徒対象の人権講話の実施 ・道徳の研究授業の実施		・		・		・	人権・同和教育担当 道徳主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートで、学校の取り組みに肯定的な回答をした生徒・保護者の割合をそれぞれ80%以上	・毎月末に「こころのアンケート」を全校生徒を対象に実施する ・生徒指導部会(週1回)と生徒指導協議会(月1回)を通し、全職員で生徒に関する情報共有と対応を検討する		・		・		・	生徒指導主事	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒60%以上	・生徒の出番の確保と自浄作用の支援(主体的な生徒会活動の推進) ・自己肯定感を向上させる指導方の研究と実践 ・キャリア教育の充実		・		・		・	進路指導主事 総合学習担当	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒95%以上	・朝食の効果について、保健だよりや給食時間の放送を通して引き続き啓発を行う ・食育週間等に生徒に対し朝食に関するアンケート等を取り、引き続き大切さを知らせていく		・		・		・	保健主事 食育担当 養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・行事、学級・学年事務、校務分掌事務等の精選		・		・		・	教頭	
	○協働性を重視した職場の構築	○学年や校務分掌の連携がとれており、グループワークが進んでいると答える職員80%	・担任任せにせず、全職員で学年・学校経営を行う組織づくり ・部活動複数顧問制度の活用		・		・		・		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員、保護者の連携の推進	○特別支援教育に関する教員、保護者の連携が適切にとれていると答える教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有		・		・		・	特別支援教育コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○SDGsの理解と推進	・持続可能な開発目標(SDGs)の理解と実践	・ラブアースデーへの参加者数10人以上 ・地域ボランティアへの参加率を昨年度よりも向上させる	・4月オリエンテーションでの紹介(生徒会長) ・ラブアースへの参加募集(生徒会活動)		・		・		・	生徒会担当	
○ICT利活用能力とセルフコントロール力の育成	・ICT機器を用いて自らの考えを伝える能力の向上 ・スマートフォン等の電子機器の利用についてルールやモラルを守ろうとする意識の向上	・「ICT機器を用いて自らの考えをまとめ、伝えることができる」について肯定的な回答をした生徒70%以上 ・「スマホの利用時間2時間以内」である生徒60%以上	・各教科等でタブレット端末を利用したプレゼンテーションおよび相互に評価し合う活動の実施 ・テスト期間中の家庭学習を記録し見直す取組の実施 ・インターネットやSNSの利用等についての学習の実施		・		・		・	研究主任 ICT推進	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望		・ ・ ・									